

行田市義務教育学校設置に向けた 再編計画〈個別編〉



行田市教育委員会

目次 Contents

- 02 1 個別編の基本的事項
- 02 2 再編を進める上での基本的な考え
- 03 3 行田市がこれから目指す学校教育
- 04 4 義務教育学校の新たな学び
- 07 5 多様な人間関係を構築できる学校
- 08 6 学習意欲を向上させる魅力的な学び舎
- 08 7 子どもたちや保護者への配慮
- 09 8 新しい学校の候補地など

1 個別編の基本的事項

本市の児童生徒数は想定を上回るスピードで減少しており、これに伴い、配置される教員数も少なくなることから、教育活動を実施する上で支障が生じています。こうした状況を踏まえ、本市では、より良い教育環境と質の高い教育を実現するため、令和6年8月に今後の学校再編の方向性を示す「行田市義務教育学校設置に向けた再編計画〈骨子編〉」(以下「骨子編」という。)を策定し、概ね10年後の令和16年度までに3校の義務教育学校に再編することを目指しています。

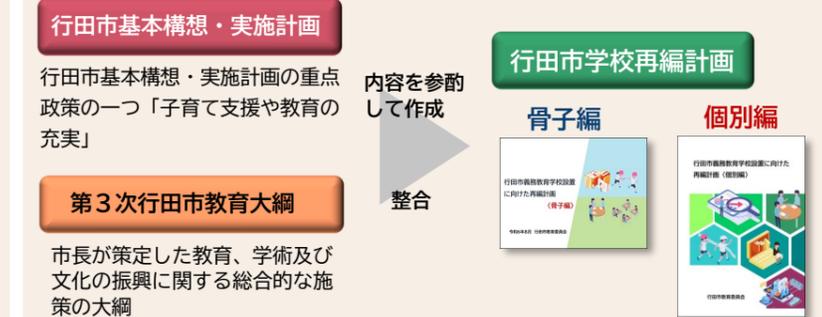
そして、このたび作成した「行田市義務教育学校設置に向けた再編計画〈個別編〉」(以下「個別編」という。)では、骨子編を踏まえ、「再編後の学校の位置」、「使用する学校(既存か新設か)」及び「新校開校までのスケジュール」などを示していきます。

なお、本計画は、市政運営の総合指針である「行田市基本構想・実施計画」や「第3次行田市教育大綱」の内容を踏まえて作成しています。

児童生徒数の推移及び将来推計(5年ごと)



骨子編と個別編の関係性及び再編計画の位置づけ(イメージ)



2 再編を進める上での基本的な考え

魅力的な義務教育学校を設置し、教育的価値を最大限に引き出すためには、施設整備だけではなく、新しい発想をもって指導方法などを見直していく必要があります。

こうした考えの下、「子どもたちのウェルビーイングを向上させる学校再編」をキーコンセプトとして定め、次の図のとおり4つの基本的な考えに基づいて学校再編を進めます。

再編後の義務教育学校では、各基本的な考えに即した取組みを推進することで、変化が激しく、先を見通すことが困難な時代に必要な「生き抜く力」を育成します。

再編計画の基本的な考え

子どもたちのウェルビーイングを向上させる学校再編

子どもたちの発達段階を踏まえた義務教育9年間の学びを構築します

「英語のできる行田っ子」を目指し、グローバルな視野で学びます

学校の小規模化に伴う課題を解消していきます

子どもたちの登下校時における安心安全の確保を図ります

01

義務教育9年間を一体的にとらえた学びで、生き抜く力を養います

03

多様な人間関係を構築できる学習集団を確保します

02

行田ならではの特色ある学校を作ります

04

豊かな学びを支える教育環境を整備します

ふるさと行田の歴史・自然・産業・文化などについて学びます

デジタルを活用した先進的な学びを行い、子どもたちの力を引き出します

新しい時代の学びに対応した魅力的な学習空間を整備します

地域住民が安心して利用できる学校施設を整備します



3 行田市がこれから目指す学校教育

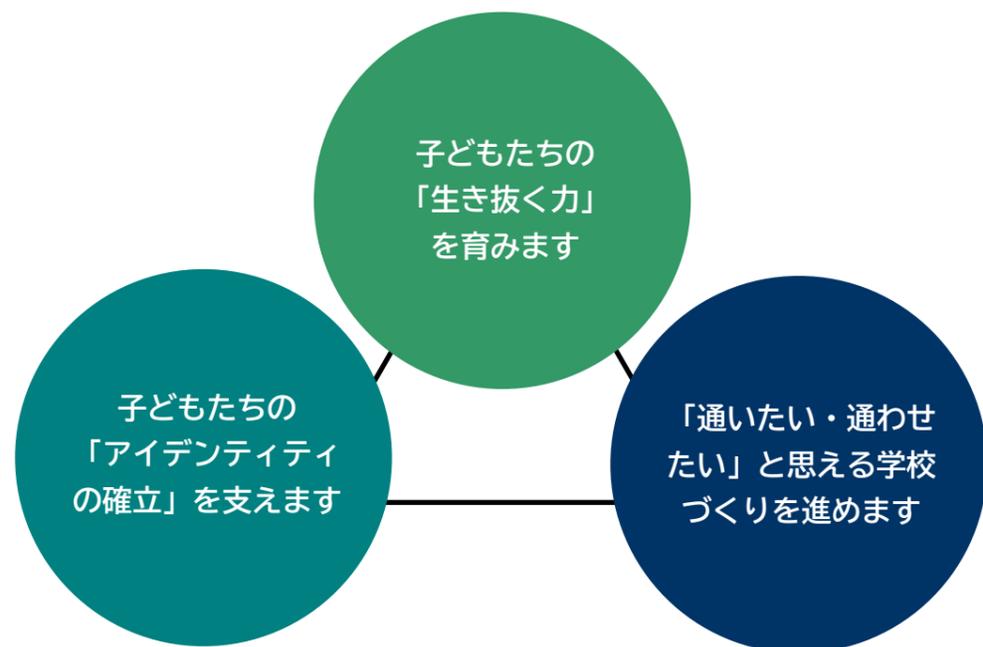
子どもたち一人一人の能力を 開花させる教育へ



学校は、知識を身に付け、技術を習得するだけの場所ではありません。周りの友だちと切磋琢磨しながら多様な価値観に触れ、感性を磨き、さまざまな環境での経験を通じて人間性を培い、子どもたち一人一人の能力を開花させていくといった役割が求められています。

知識や技術だけでなく、行動できる子どもを育てる学校を目指し、行田の教育施策を推進していきます。

行田市がこれから目指す学校教育



本市がこれから目指す学校教育を実現するためには、一定規模の学校が必要なことから、施設一体型の小中一貫教育に向けた義務教育学校へ再編していきます。

4 義務教育学校の新たな学び

「生き抜く力」を育みます

小中一貫教育で



新たな学校で構築する 義務教育9年間の学び

変化の激しい時代において、行田の子どもたちが自信を持ってさまざまなことに挑戦し、困難な状況にあっても自らの力で進むべき道を切り拓き、世界で活躍できるよう、心身共に健康で、たくましく生き抜く力を育みます。

そこで、学校再編により設置する義務教育学校では、子どもたちが義務教育9年間の見通しをもって、自信をもち自己の力を伸ばせるよう、一人の校長による一貫した教育方針のもと、教職員がワンチームとなって指導に当たります。

主な取組み

- ◆ 「目指す子ども像」を設定し、計画的・体系的な指導を実施します
- ◆ 「6-3制」だけでなく、発達段階を踏まえた「4-3-2制」や「5-4制」などを検討し、導入を図ります
- ◆ 9年間の学びを一体的に捉え、指導の方法、勉強の方法、授業の時間、定期テストの在り方、家庭での学習の進め方などを整理します
- ◆ 主体的に子どもたちが学べるよう、自己の興味関心や課題に応じた個別学習などを進めます
- ◆ 中学校教員と小学校教員が協力した相互乗り入れ授業や子ども同士の異学年交流を進めます





行田ならではの特色ある学校を創ります

外国語 グローバルな視野で学び続ける「英語のできる行田っ子」を育成

グローバルな社会で、未来を担う子どもたちが、異なる言語や文化の人々とコミュニケーションを図り、「世界を見る窓」として英語を活用できる力を育成します。

主な取組み

- ◆ 幼児期からの英語の触れ合いを継続するため、低学年からネイティブの指導員による英語学習を計画的に進めます
- ◆ 「読む、書く、聞く、話す」といった英語4技能をバランスよく身に付けるため、英語力を客観的に測定するテストを導入し、教育施策や授業改善を実施します
- ◆ 生成AIを活用し、英会話を練習することで英語による表現力を高めめます
- ◆ 英語によるスピーチやディベートを行い、自分の思いや考えを伝える力を育成するとともに、ふるさと行田の魅力を英語で発信する機会を設けます
- ◆ 異なる言語や文化の人々との交流を図るため、イングリッシュキャンプ（英語だけで過ごす校外活動）やオンラインなどを活用した海外交流を実施します



ふるさと学習

郷土を見つめ直し 地域資源を生かした 課題解決型学習を実施

ふるさと行田の歴史・自然・産業・文化などについて体験的に学び、市民としてのアイデンティティを確立するとともに、これらの地域資源を活用し、本市のリアルな課題について探求的に学びます。また、各学校や友好都市の子どもたちと交流することで、多様な観点から行田を考察します。

主な取組み



- ◆ 社会科や総合的な学習の時間を活用し、行田の歴史・自然・産業・文化などを学習します
- ◆ 協働的な課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）を実施し、結果をホームページなどに掲載するとともに、9年間の集大成は市政への提言を目指します
- ◆ 市内の各学校をはじめ、三重県桑名市や福島県白河市といった友好都市の子どもたちと交流し、成果発表を実施します
- ◆ 各界で活躍する本市出身者を講師として招き、多様な価値観に触れることで、将来に向けた視野を広げ、自立する力を育成します
- ◆ ふるさと行田の魅力を英語で発信する機会を設けます（再掲）

教育DX

子どもたちの力を引き出す デジタルを活用した学び

GIGAスクール構想による1人1台端末と高速通信ネットワークの環境の下、デジタル技術の急速な発展を踏まえた授業実践を行い、これまでの学びの深化や新たな学びへの転換を図ります。

主な取組み

- ◆ 1人1台端末や高速ネットワークを最大限活用し、子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業を実施します
- ◆ 個人の学習履歴やAIドリルなどの授業支援システムを活用し、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別最適な学びを実施します
- ◆ 互いの考えをリアルタイムに共有し、子ども同士で双方向の意見交換を行う協働的な学びを実施します
- ◆ 情報の真偽の見分け方や、自他が安全に情報を利用する方法を学び、情報を活用して整理・分析し、発信する力を育成します
- ◆ 学習内容や目的に応じ、アナログやデジタルの教科書・教材の使い分けや組み合わせを考慮するなど、バランスを図っていきます



義務教育学校による新たな学びのイメージ

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	
指導形態	区切り	学びの基礎期（1期）				学びの活用期（2期）			学びの応用期（3期）		
	授業時間	45分							50分		
	テスト形式	単元テスト				定期テスト一部導入			定期テスト		
	担任	学級担任制				準教科担任制			教科担任制		
学びの特色	外国語	外国語活動（年20h） ・学級担任・ALT ・イングリッシュキャンプ		外国語活動（年35h） ・学級担任・ALT ・イングリッシュキャンプ		外国語（年70h） ・英語専科教員・ALT ・生成AIによる英会話練習 ・英語による演劇会など ・オンライン海外交流など		英語（年140h） ・英語科教員・ALT ・英語4技能測定 ・生成AIによる英会話練習 ・スピーチコンテスト、オンライン海外交流など			
	ふるさと学習	地域を知る		・地域に関する調べ学習 ・歴史や自然に関するフィールドワーク		・地域に関する調べ学習及び職場体験学習 ・歴史、自然、産業、文化などに関するフィールドワーク		・地域を題材にした課題解決型学習 ・友好都市との交流、市政への提言			
	教育DX	・個別最適化した教材（AIドリルなど）の活用による知識・技能の定着				・意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習		・教育機関や企業などと連携したプログラミング学習			
特別活動	学校行事					前期課程修了式			卒業式		
	交流活動	縦割り班活動							委員会活動		
課外活動	部活動					部活動への参加（希望者）			部活動		

クローズアップ デジタルを活用した新しい学び

デジタル技術の進展により、私たちの社会は、日々、大きく変わりつつあります。本市においてもGIGAスクール構想により1人1台端末や高速ネットワーク環境が整い、授業改善を進めているところです。

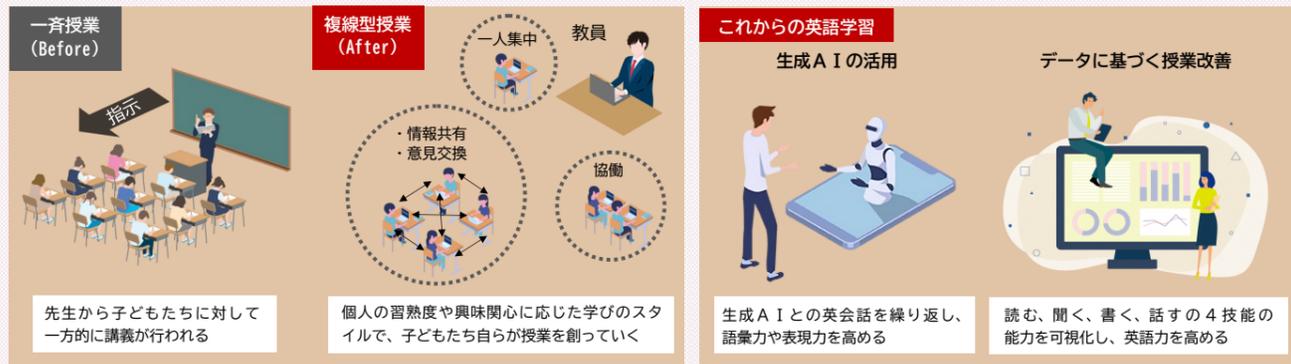
例えば、デジタルドリルを活用し、国語や算数・数学などで一人一人の進捗に応じた振り返りを実施することや、行田の歴史などをテーマに課題解決型学習を進める際、意見交換をクラウド上で瞬時にやり取りし、議論を深めていくことが可能です。

今後は、デジタル技術を活用することで、こうした子どもたち一人一人のペースに合わせた「個別最適な学び」と子どもたちがデジタル上で共同作業を実施する「協働的な学び」を一体的に充実させ、従来型の一斉授業だけでなく、複線型の授業も進めていきます。

また、英語学習でもデジタル技術を積極的に活用します。英語はコミュニケーションツールであることから、アウトプットの機会が重要です。そこで、英会話の練習や音読に生成AIを活用し、テニスの壁打ちのように自己練習できる機会を設けます。こうした取組みにより、語彙力や表現力、反応速度などを高めていきます。併せて、「読む、聞く、書く、話す」といった英語4技能を定量的に測定できるテストを導入し、データに基づく英語学習を進めていきます。



〈デジタルを活用した新しい学びのイメージ〉



6 学習意欲を向上させる魅力的な学び舎

豊かな学びを支える教育空間を整備します

「未来志向」をもった新しい時代の学び舎

1人1台端末と高速ネットワーク環境の下、多様な学習を展開し、子どもたちの知的な好奇心を刺激できるよう、柔軟で創造的な学習空間を整備していきます。併せて、生活空間として木材を使用することにより、温かみを持たせるとともに、発達段階に応じた動線の確保を図ります。また、環境負荷の低減や地域の避難所として安心できる空間を目指していきます。

探求的な学びや協働的な学びを充実



探求的な学びやグループ学習を充実させる、学校図書館とコンピュータ室を組み合わせた「ラーニング・commons」

異学年交流を促進



学級や学年を越えて、子どもたちが日常的に交流できる空間

多様な学びを展開する学習空間



知的な好奇心を刺激する創造的な学習空間

柔軟な学習空間



普通教室と廊下を活用し、多様な授業形態に応じた柔軟な学習空間

*ラーニング・commons：情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の家具や設備が用意された開放的な学習空間

5 多様な人間関係を構築できる学校

一定の児童生徒の集団を確保

児童生徒数の減少により、学校規模が小さくなり、単学級が増加するとともに、今後は複式学級も発生していく見込みです。

学校教育では、単に知識や技能を学ぶだけでなく、集団活動の中で多様な価値観に触れ、社会性を身に付けていく機会が大切です。

このため、さまざまな人間関係を築けるよう、学校再編を通して、全学年でクラス替えができる規模を目指し、教育活動を充実させていきます。



部活動の充実により学校生活をより豊かに

部活動は、人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場であり、大切な役割を担っています。

本市でも、各種大会・コンクールなどに向けて、スポーツや芸術文化活動に挑戦するとともに、友達との交流や自己肯定感を高める場として活動しています。しかし、近年、生徒数の減少により、希望する部活動で十分に活動できない状況です。このため、再編を通して、一定の学校規模を確保し、スポーツや芸術文化活動に継続して親しめるよう努めるとともに、部活動の地域展開についても検討を進めていきます。



7 子どもたちや保護者への配慮

登下校時の安心安全の確保

保護者や地域の見守りボランティアの方々の協力をいただきながら、登下校時における安全を確保します。

長距離通学者に対しては、通学に係る負担軽減を図るため、スクールバスの運行や地域公共交通機関の利用を検討します。その際、利用条件や通学時間については、開校準備の間に保護者や学校関係者の方々と検討していきます。

学童保育室について

学校再編後も安心して利用できる学童保育室の確保が求められています。担当部署と連携し、開校準備の間に、保護者などの意見も踏まえながら対応を検討していきます。

円滑な学校生活を送れるように

再編前に事前交流を実施し、新たな人間関係をスムーズに構築できるよう支援します。

また、再編後の学校でも円滑に学校生活を送れるよう、再編前から対象校同士で学習規律や生活規律などに関するルールや生徒指導の方針・基準等について調整していきます。

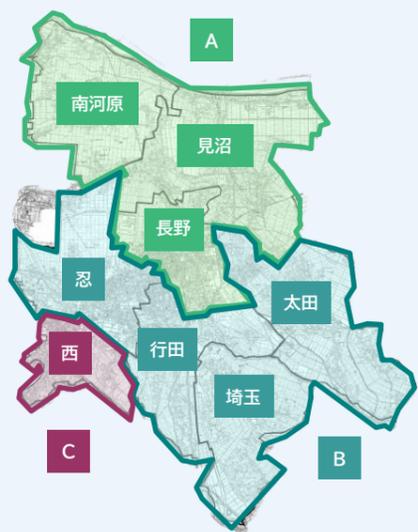


8 新しい学校の候補地など



学校再編の将来像

本市は、現在、中学校8校、小学校12校の計20校を設置していますが、令和6年度に策定した骨子編に基づき、下図のように、市域を3つの通学区域に再編し、令和16年度までにそれぞれ1校ずつ義務教育学校を設置していくことを目指しています。施設整備を考慮すると、新校開校時期は早くても令和12年度以降となり、どの地域も開校時には1,000人を超える規模の学校になると予測しています。



		児童生徒数及び学級数	R12	R13	R14	R15	R16
Aブロック	前期	児童数(人)	909	870	797	777	755
		学級数(学級)	28	27	25	25	25
	後期	生徒数(人)	466	434	454	413	383
		学級数(学級)	13	12	12	11	10
Bブロック	前期	児童数(人)	822	804	817	829	845
		学級数(学級)	26	26	27	28	28
	後期	生徒数(人)	604	556	513	490	456
		学級数(学級)	16	15	14	13	12
Cブロック	前期	児童数(人)	748	719	747	712	708
		学級数(学級)	25	24	25	24	24
	後期	生徒数(人)	456	438	388	407	374
		学級数(学級)	13	12	11	12	11

※学級数は、普通学級

新しい学校の候補地としての条件

各地区における新しい学校の候補地については、次に掲げる条件を満たすものとし、総合的な観点から検討の上、決定していくものとします。

施設一体型の義務教育学校が設置できる敷地面積があること



*既存校を活用する場合は、駐車場や運動場として、敷地の拡張を検討します

児童生徒の安全面を考慮しつつ、徒歩・自転車通学の割合が一定数あること



児童生徒の居住分布を踏まえつつ、地域バランスが図られること



Aブロック

Aブロックは、長野中学校区、見沼中学校区、南河原中学校区から構成されます。新校の位置は、施設一体型の義務教育学校を設置できるとともに、徒歩・自転車通学の割合や地域バランスなどを考慮した結果、長野中学校区内とし、現時点では、長野中学校の敷地を候補地とします。

なお、個別編を策定した後も、他に候補地となり得る敷地がないか調査を行い、最終的な選定や整備方法は基本構想で定めます。

長野中学校の敷地 Data	敷地面積	22,145㎡	2km圏内居住児童割合	70%
	校舎延床面積(現況)	6,907㎡	4km圏内居住生徒割合	89%
	再編後想定校舎延床面積	12,116㎡		

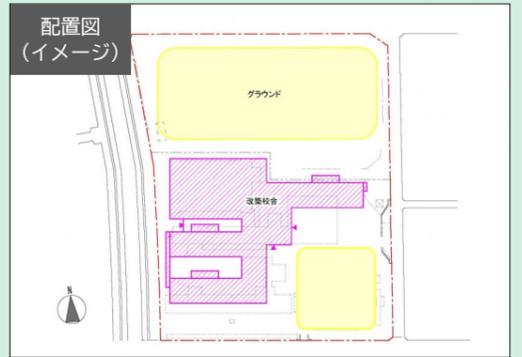
鳥瞰図(イメージ)



候補地
長野中学校の敷地

使用する敷地
既存

配置図(イメージ)



Bブロック

Bブロックは、忍中学校区、行田中学校区、埼玉中学校区、太田中学校区から構成されます。新校の位置は、施設一体型の義務教育学校を設置できるとともに、徒歩・自転車通学の割合や地域バランスなどを考慮した結果、行田中学校区内とします。現時点では、行田中学校の敷地または新設が可能な場合は佐間地区内の敷地を候補地とし、最終的な選定や整備方法は個別編策定後の基本構想において定めます。

行田中学校の敷地 Data	敷地面積	24,078㎡	2km圏内居住児童割合	49%
	校舎延床面積(現況)	4,901㎡	4km圏内居住生徒割合	90%
	再編後想定校舎延床面積	12,083㎡		

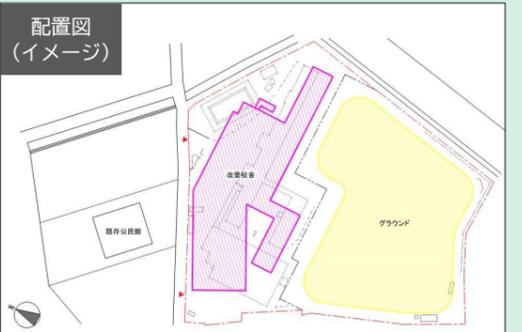
鳥瞰図(イメージ)



候補地
行田中学校の敷地

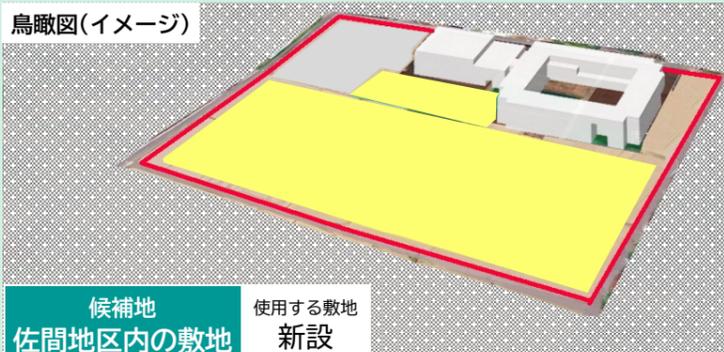
使用する敷地
既存

配置図(イメージ)



佐間地区内の敷地 Data	敷地面積	約30,000㎡~ 37,000㎡	2km圏内居住児童割合	40%以上
	再編後想定校舎延床面積	14,000㎡程度	4km圏内居住生徒割合	90%以上

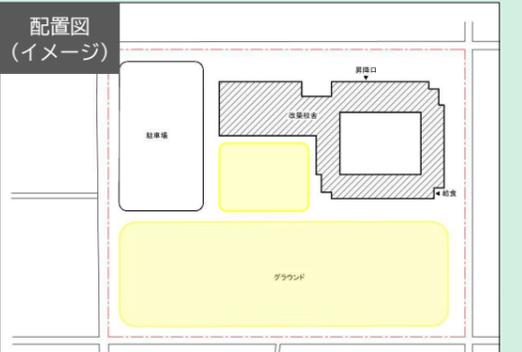
鳥瞰図(イメージ)



候補地
佐間地区内の敷地

使用する敷地
新設

配置図(イメージ)

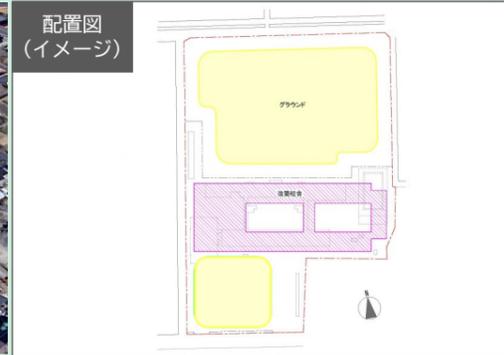


*校舎の配置などはイメージであり、具体は基本構想で定めます

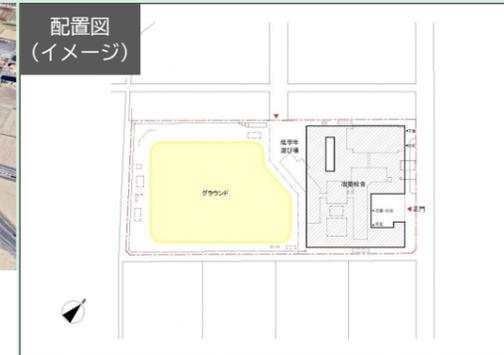
C ブロック

Cブロックは、西中学校区のみで構成されます。新校の位置は、施設一体型の義務教育学校を設置できる西中学校の敷地または泉小学校の敷地を現時点における候補地とし、最終的な選定や整備方法は、個別編策定後の基本構想において定めます。

西中学校の敷地 Data	敷地面積	26,020㎡	2km圏内居住児童割合	93%
	校舎延床面積(現況)	7,025㎡	4km圏内居住生徒割合	100%
	再編後想定校舎延床面積	12,890㎡		



泉小学校の敷地 Data	敷地面積	19,369㎡	2km圏内居住児童割合	94%
	校舎延床面積(現況)	4,591㎡	4km圏内居住生徒割合	100%
	再編後想定校舎延床面積	12,565㎡		



*校舎の配置などはイメージであり、具体は基本構想で定めます

■ 新校開校に向けた目標スケジュール（イメージ）

新校を開校する目標年度は、以下のスケジュール表のとおりです。

3ブロックの中で最も通学区域が大きいBブロックから着手することとし、その後、施設整備に係る工事の平準化を図るため、2年おきにAブロック、Cブロックと順に開校を目指していきます。

なお、児童生徒の減少により、著しく教育活動に支障が生じている学校は、新校開校前に近隣校への編入を検討します。

この他、施設整備と併せて、校名、校歌、校章、通学方法、PTA活動などについては、新校開校までの間に学校関係者の皆様と共に検討していきます。

年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
Aブロック			基本構想※1	基本設計※2	実施設計※3	工事		開校 (目標)		
Bブロック	基本構想	基本設計	実施設計	工事		開校 (目標)				
Cブロック				基本構想	基本設計	実施設計	工事		開校 (目標)	

※1 基本構想：学校の設計・工事を進める上での基本的な考え方や指針を示すもの。

※2 基本設計：建物の構造や配置、各階の基本的なレイアウト、備えるべき機能や設備、建物内外のデザインなどを基本設計図書としてまとめる。

※3 実施設計：基本設計図書に基づき、機能性、デザイン性及び技術面など多方面に渡っての詳細な設計、工事費の積算などを実施設計図書としてまとめる。